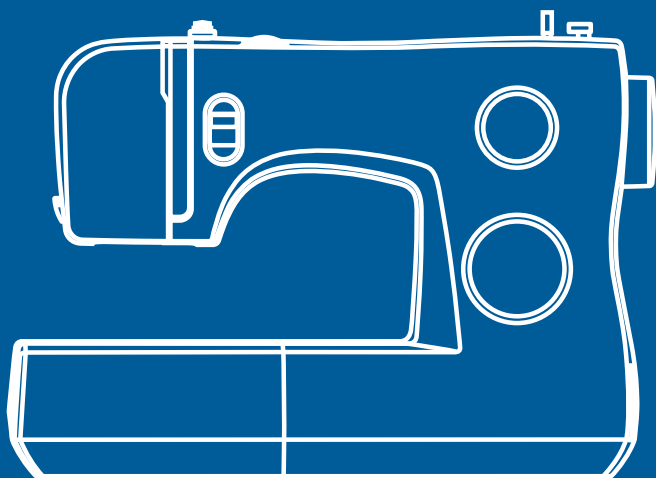




SINGER®

SN621 使用の手びき

このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。

「使用の手びき」は手元に保管し、末長くご活用ください。

このたびは、お買い上げいただき、ありがとうございます。

このミシンは、直線縫いやジグザグ縫いはもちろん、ホームソーイングに必要な縫いが簡単にできる家庭用ミシンです このミシンの特長をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観デザインまたは、付属品を変更することがあります。

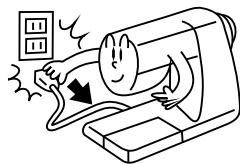
安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY。

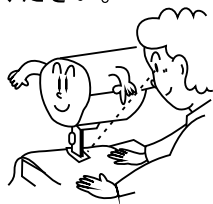
！警告 感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電流 100V でご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき。
 - ・ ミシンを使用したあと。
 - ・ ミシン使用中に停電したとき。



！注意 感電、火災、けがなどの原因となります。

1. 電源をつなぐ際は、電源スイッチを必ず「OFF」にしてください。
2. お客さま自身での分解、改造はしないでください。
3. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
4. ミシンの操作中はかまカバーなどのカバー類は必ず閉めてください。
5. 曲った針、先のいたんだ針はご使用にならないでください。

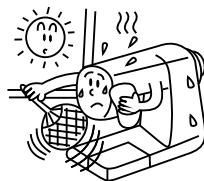
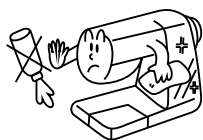


6. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。
7. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
8. 以下のことをするとき、電源スイッチを切ってください。
 - ・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
 - ・ランプを交換するとき。（ランプが冷えてから行ってください。）
 - ・「使用の手びき」に記載のあるミシンの手入れをするとき。
 - ・原則として上糸、下糸をセットするとき。
9. ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
 - ・正常に作動しないとき。
 - ・落下などにより破損したとき。
 - ・水に濡れたとき。
 - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - ・異常な臭い、音がするとき。
10. ミシンを正しく使用するために、平らなテーブルや机の上で、ご使用ください。



ミシンの取り扱い

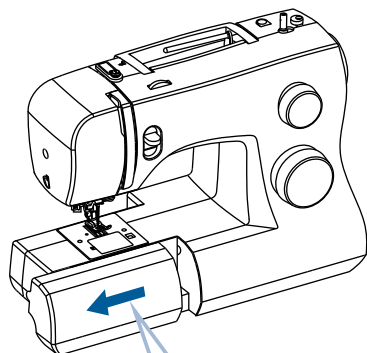
- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動するようになります。保管は、なるべく寒いところをさけてください。
- 直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。



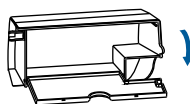
目次

補助テーブル・付属品	5
フリーアーム	6
各部の名称	7
電源のつなぎ方と始動・停止	8
ボビンの取り出し方	9
下糸の巻き方	10-11
ボビンのセット	12
上糸のかけ方	13-14
糸通しの使い方	15
下糸の引き上げ方	16
針の取りかえ方	17
押えの取りはずし方、取りつけ方	18
針と糸の選び方	19
2段式押え金	20
送りカバープレート	20
模様の選び方	21
上糸調子のとり方/ 布地の裏側がタオル地のようにするのは	22
直線縫い	23
返し縫い・縫い方向のかえ方・厚地の縫い始め・段縫い	24
ジグザグ縫い及び裁ち目かがり	25
ボタンホール	26-27
まつり縫い（ブラインドステッチ）	28-29
伸縮縫い（ストレッチステッチ）/ スカラップ	30
ファスナー付け	31
ファゴティング/ パッチワーク	32
シェルトック	33
ミシンの手入れ	34
LED ライトの交換	35
こんなときには（調子が悪い場合）	36-37
修理サービス要領	38
ミシンの仕様	39

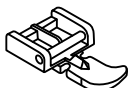
補助テーブル・付属品



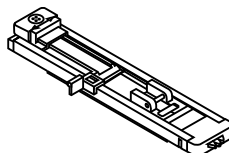
- 補助テーブルは、左方向にスライドさせると本体より取り外せます。
- 付属品は、補助テーブルの中に入っています。
- 付属品箱は、手前方向に開けてください。



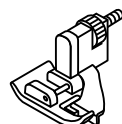
ジグザグ押え
(ミシン本体についています)



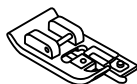
ファスナー押え



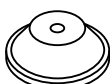
ボタンホール押え



ブラインド
ステッチ押え



縁かがり押え



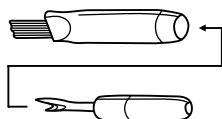
糸巻き押え (大)



糸巻き押え (小)
※糸コマが細い場合
にはこちらの押え
をご使用下さい。



三角ドライバー



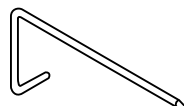
リッパー／ブラシ



針パック



ボビン



シームガイド



送りカバープレート



ソフトカバー

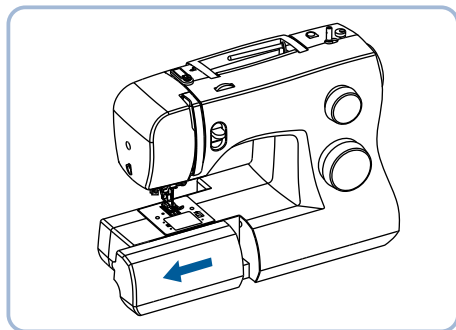


フットコントローラー
(電源コード一体式)



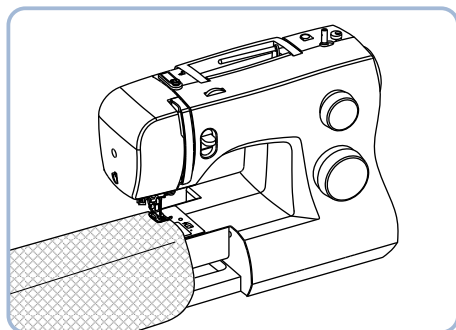
取扱説明書

フリーアーム



補助テーブルをはずせば、フリーアームとして使えます。

補助テーブルの左端を持って、矢印方向に引くと簡単にはずれます。

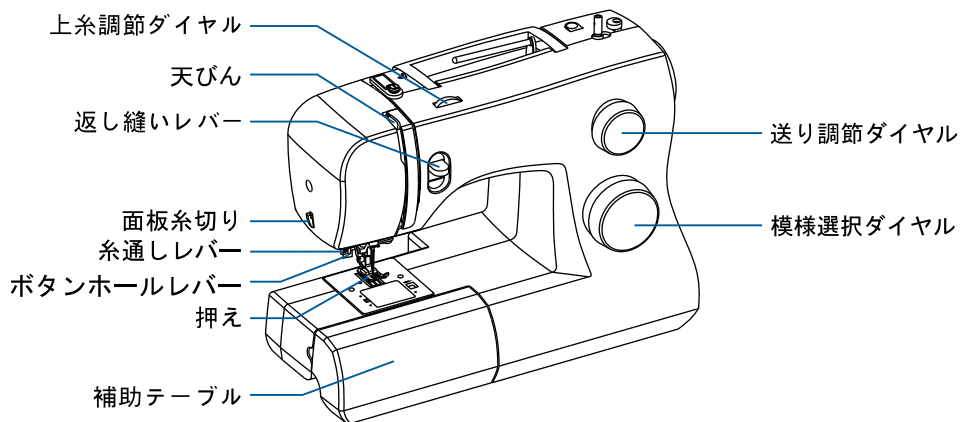


フリーアームは袖付け、袖口のカフス付け、ズボンのすそ、衿付け等、筒形のものを縫うときに使います。

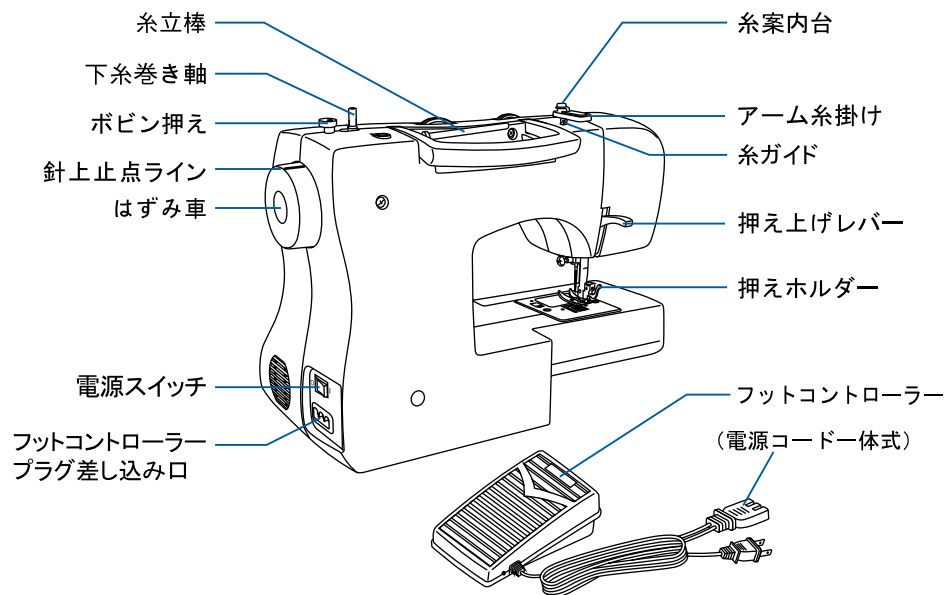
各部の名称

ここでは、ミシンの各部の名称とはたらきを説明します。ミシンをご使用になる前に、よく読んで各部の名称を覚えておきましょう。

● 左側面・前面



● 右側面・背面

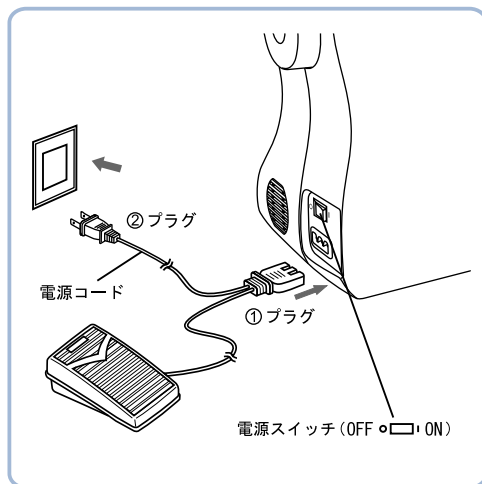


電源のつなぎ方と始動・停止

! 警告

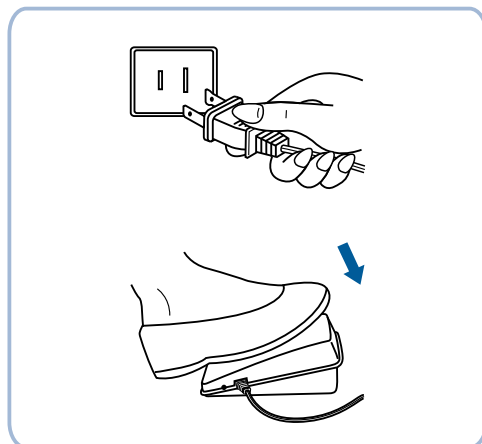
感電、火災を防ぐために

電源は必ずプラグを持って抜き差ししてください。



- 電源コードのプラグ①をマシンに、プラグ②を家庭用電源(100V50/60Hz)コンセントに差し込みます。

電源スイッチを入れますと照明ランプが点灯します。



● ご注意

マシンをご使用にならないときには、必ず電源プラグを抜いておいて下さい。

コントローラーの使い方

浅く踏む —— スピードおそい

ふかく踏む —— スピードはやい

! 注意

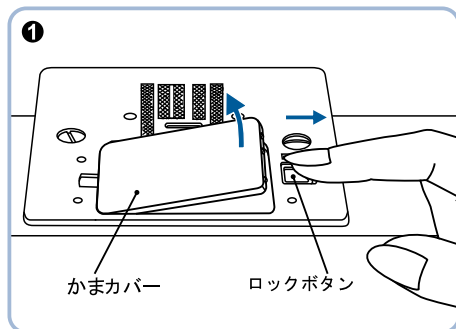
ケガ防止のために

1. 使用中に糸がかからんだり、マシンが止まった場合には、電源スイッチを「切」にしてください。
2. マシンを使用しないとき、マシンから離れるときは、電源プラグを外してください。

ボビンの取り出し方

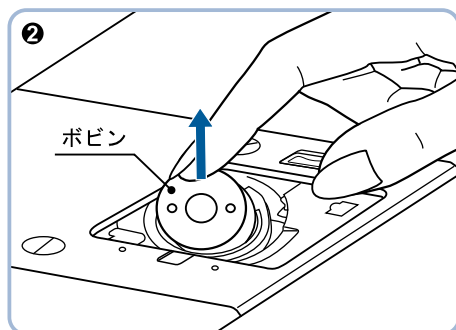
!注意

ケガ防止のために
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



ボビンの取り出しは、かまカバーを開けてから行います。

- ① かまカバーのロックボタンを右へスライドさせます。



- ② かまカバーをはずし、ボビンを取り出します。

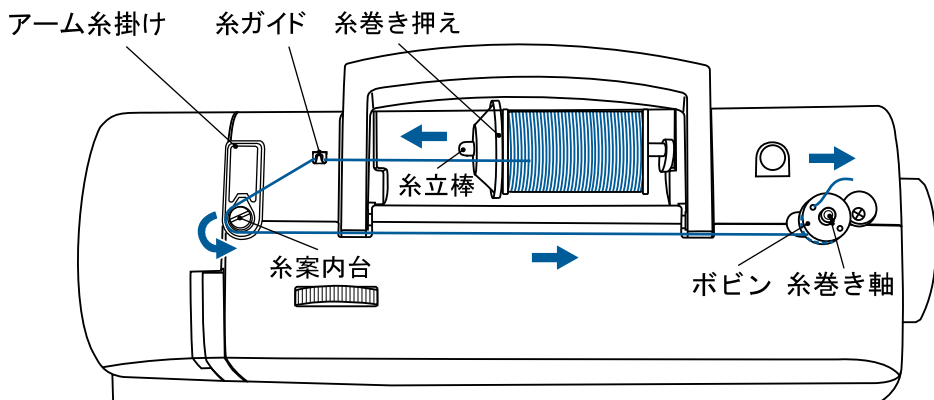
下糸の巻き方

下糸用の糸をポビンに巻いてから、ミシンにセットします。

注意：ケガ防止のために

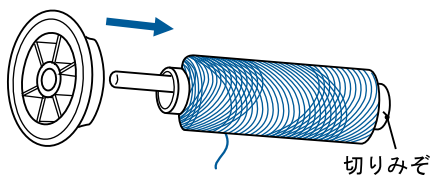
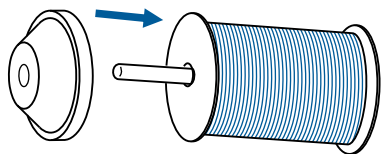
!注意

- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- ポビンは必ず専用ポビン(高さ11.5mm プラスチック製)を使用して下さい。専用ポビン以外を使用すると、ミシンが正しく動作しません。ケガ・故障の原因となります。
- ポビンを取りだすときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



● 糸コマをセットします

糸立棒をかるく持ち上げ、下側から手前に糸が出る向きにして糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。

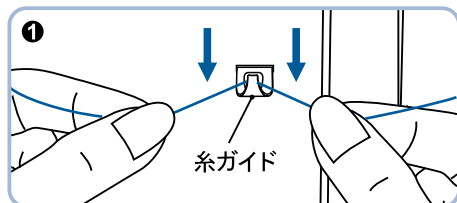


※糸巻きに切りみぞがあるときは、それを右側にしてください。

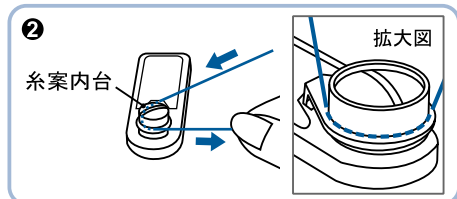
※小さい糸を使用するときは、糸コマ押えを下図のように取り付け、糸コマから少し離してセットします。

下糸の巻き方

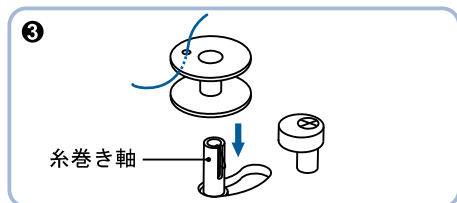
● 下糸を巻きます



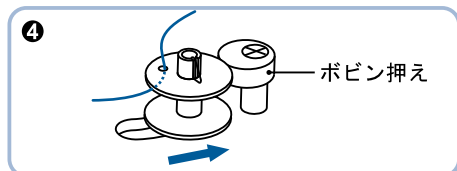
- ① 糸こまから糸を引き出し、糸ガイドの後ろから手前に糸をかけます。



- ② かけた糸端を更に引いて、糸案内台の皿の間に左回りに糸をかけます。



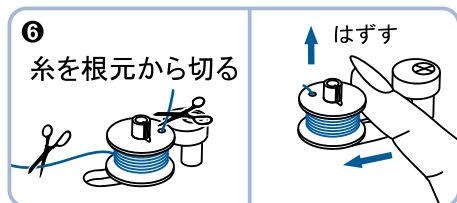
- ③ ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸にボビンをセットします。



- ④ 糸巻き軸にセットしたボビンを右方向にスライドさせボビン押えに押しつけます。



- ⑤ 糸端を手で真上の方向に持っておきます。フットコントローラーを軽く踏んで巻きを始めます。

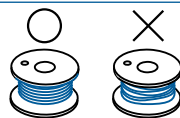


- ⑥ 巻き終わるとボビンの回転は止まります。フットコントローラーから足を離し、ミシンを止めます。糸を切り、糸巻き軸に戻してからボビンをはずします。

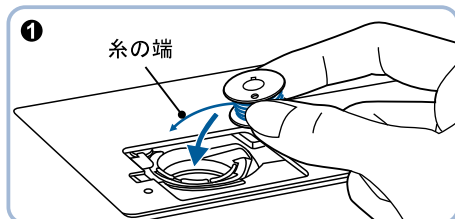
ボビンのセット

!注意

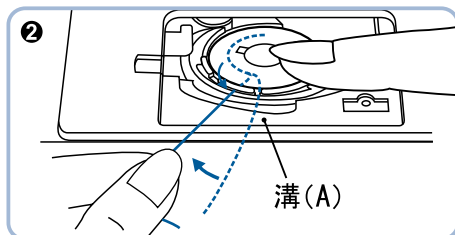
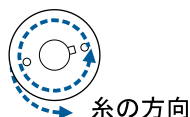
下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。



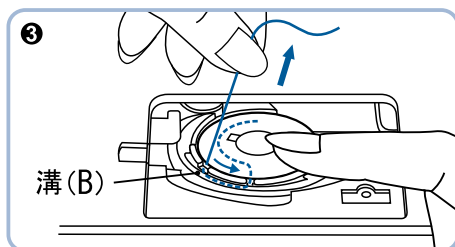
● ミシンへセットします



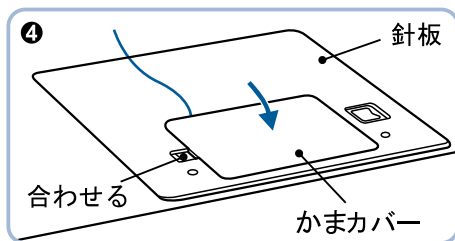
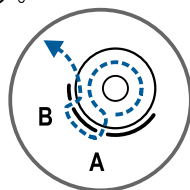
- ① かまカバーをはずし、糸の端を出してカマの中にボビンが左回りになるように入れます。



- ② 右手でボビンを押え、左手で糸の端を引きながら、溝(A)にかけます。



- ③ そのまま糸を溝(B)にかけ、向こう側へ出します。



- ④ 針板とかまカバーの左端を合わせてから、かまカバーを押し、固定します。
下糸は10cm位引き出しておきます。

!注意

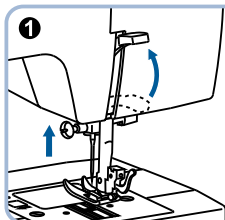
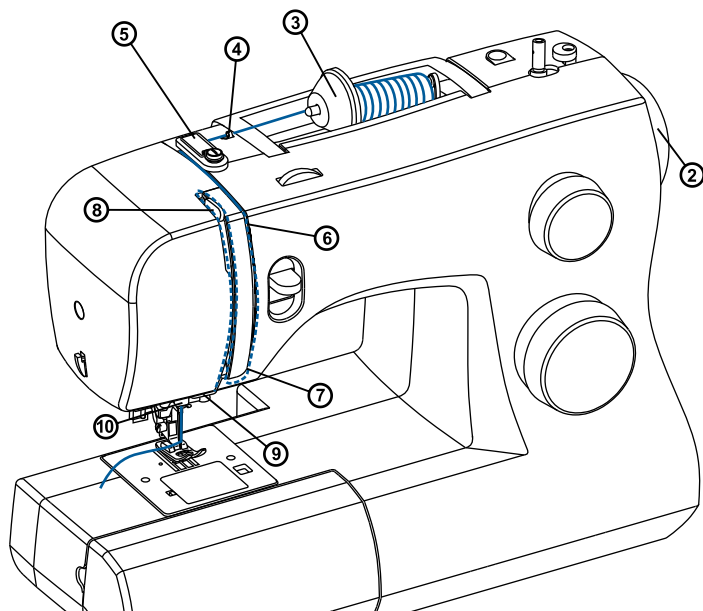
ケガ防止のために
ミシンを運転する際は必ずかまカバーを閉めてください。

上糸のかけ方

!注意

ケガ防止のために

- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



①



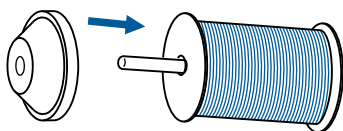
②

針上止点ライン

① 押え上げレバーを上げる。

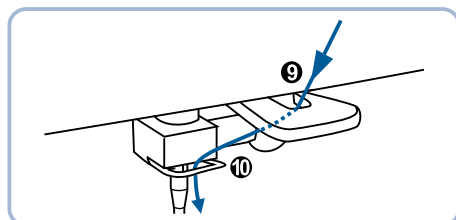
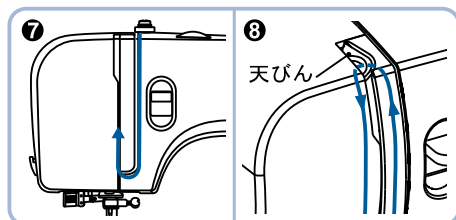
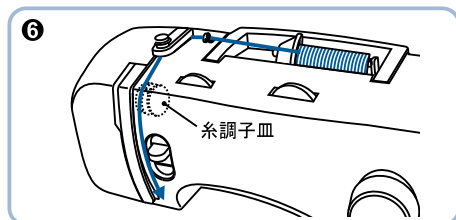
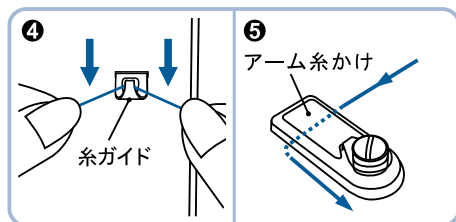
② はずみ車を手前に回し、針上止点ラインを合わせます。

③ 糸コマをセットします。



③ 下側から手前に糸がでる向きにして、糸コマを糸立棒にセットし、糸コマ押えで糸コマを押えます。

上糸のかけ方



④ 糸ガイドの後から手前に通します。

⑤ アーム糸かけに背後から手前に糸を掛けます。

⑥ 右側の糸道に糸を引き下ろして糸調子皿の間に通します。

※糸調子皿はミシン内部の部品ですので外からは見えません。

⑦ 糸を左側の糸道から上に引き上げます。

⑧ 上糸を天びんに通す時は、上糸をバネの奥に通し必ず天びんの穴の奥まで通すようにして下さい。

⑨ 糸案内に右から糸をかけます。

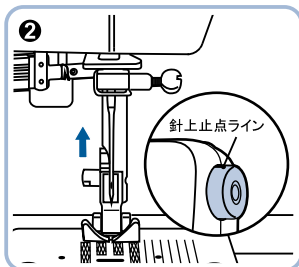
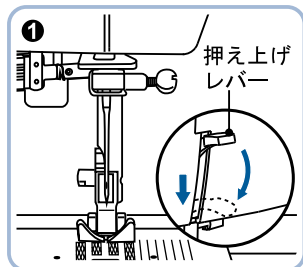
⑩ 針棒糸かけに、右から糸をかけます。

糸通しの使い方

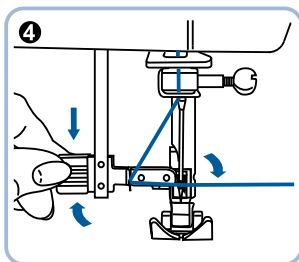
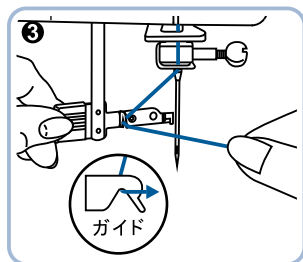
ケガ防止のために

!注意

- 糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないでください。
- ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。
糸通し装置がこわれるだけでなく、針が折れ、ケガのもとになります。

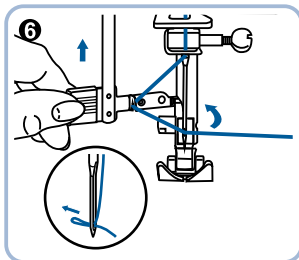
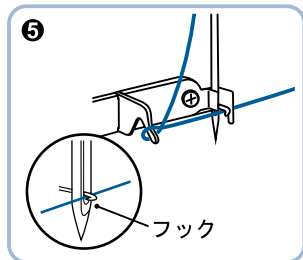


- ① 押えを下げます。
- ② はずみ車を手前に回して針上止点ラインを合わせます。
※ 針は 11 番、14 番、16 番が使えます。

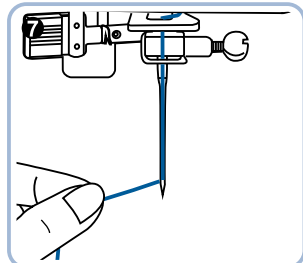


- ③ 糸通しレバーをかるく下げ、糸を糸通しのガイドにかけて、右にひいておきます。

- ④ レバーをいっぱいにして下げ、手前に回します。
※ 糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

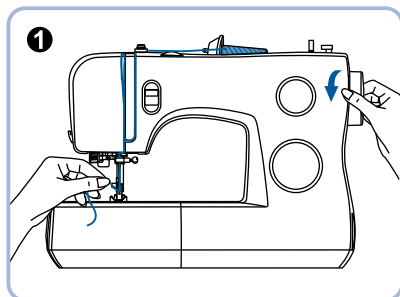


- ⑤ フックの下に糸をかけます。
- ⑥ 糸をかるく持って糸通しレバーを戻し、レバーをはなします。
※ フックが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

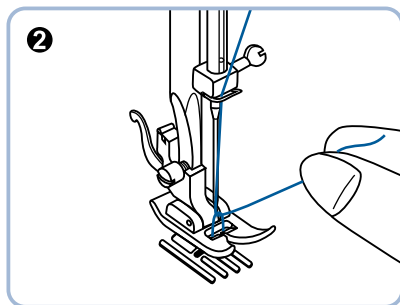


- ⑦ 糸端を針穴から 10 cm くらい引き出しておきます。

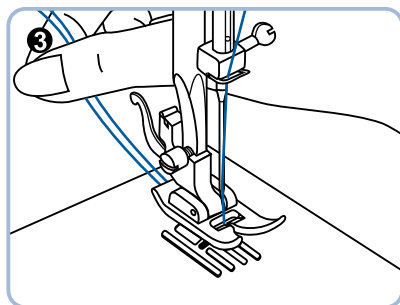
下糸の引き上げ方



- ① 押え上げレバーを上へ上げ針に通した糸を左手で持ちます。
はずみ車を手前に回して、針を上げます。



- ② 上糸を軽く引き上げると下糸が引き出されます。



- ③ 上糸と下糸をそろえて押えの下から後ろに 10 cm ほど出しておきます。

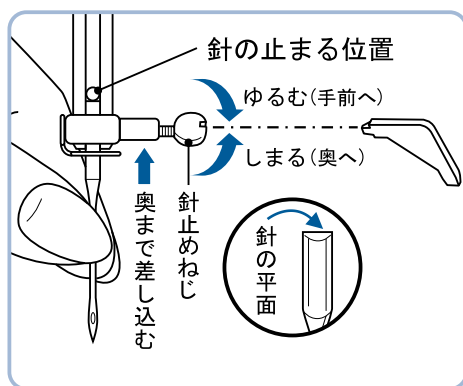
針の取りかえ方

!注意

ケガ防止のために

- 曲った針やつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- 針は必ず家庭用ミシン針 (HAXI) をご使用ください。

針は、布地や糸に合わせて選びます。19 ページの「針と糸の選び方」を参照してください。

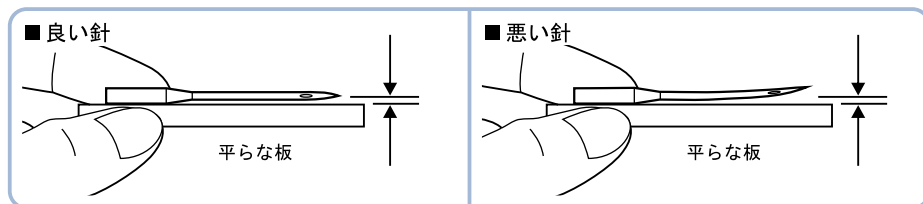


電源を切ります。

押え上げレバーを下にさげます。
針止めネジを三角ドライバーを使って
手前に回しゆるめ、針を下に引き抜
きます。

新しい針の裏面(平らな面)を向こ
う側(針棒側)に向け、針の止まる位
置まで深く差し込んで、針止めネジ
を三角ドライバーで奥へ回して締めつ
けます。

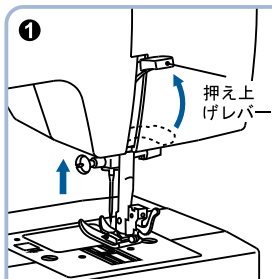
取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



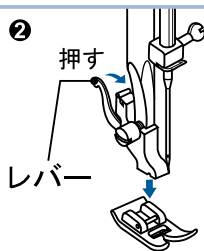
押えの取りはずし方、取り付け方

!注意

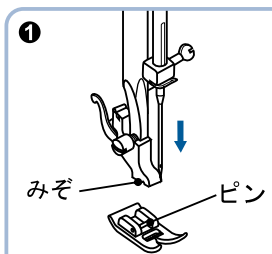
ケガ防止のために
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



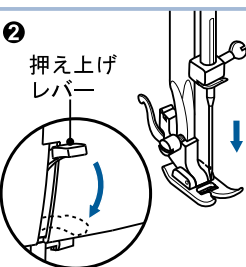
● 取りはずし方



- ① 針と押え上げレバーをあけておきます。
- ② 指先で押えホルダーのレバーを手前へおすと押えがはずれます。

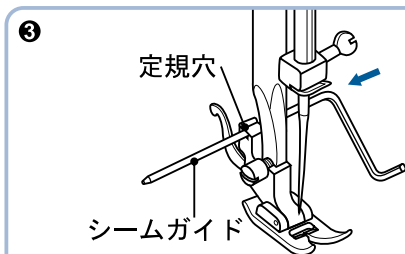


● 取り付け方



- ① 押えのピンの部分を押えホルダーのみぞの真下におきます。
- ② しずかに押え上げレバーを下げピンをみぞに入れます。

※ どの押えも、この要領で取りはずし、またセットできます。



● シームガイドの取り付け方

- シームガイドは押えホルダーの定規穴に、図のように差し込みます。
- シームガイドはしるしの線や前に縫ったステッチに平行に縫う時に使うと便利です。

針と糸の選び方

布地の種類		糸の番号	針の番号
薄地	薄地ジョーゼット、オーガンジー、ボイル、タフタ、絹布など。	綿 80～100 絹 60～80 化繊系 80～100	9～11 番
普通地	ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄手コーデュロイ、別珍、一般服地など。	綿 50～80 絹 50 化繊系 50～80	11～14 番
厚地	ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイなど。	綿 40～50 絹 50 化繊系 50～60	14～16 番
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	化繊系 50～80 絹 60 ニット用系	11～14 番 ニット用針

ケガ防止のために

！注意

- 針は家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。
- 針の取りかえは17ページを参照してください。

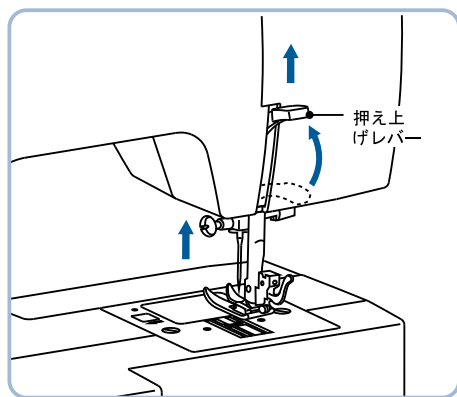
- ・ 糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ・ ニット用針は伸縮性のある布地や目がとびやすい布地に使用します。
- ・ 購入時は、14 番の針がミシンに取り付けられています。

※綿や絹糸は、経年劣化により切れやすくなります。(目安として製造より2年)なるべく新しいものをお使いください。

<オススメ>

スパン系(素材:ポリエステル)の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、また長持ちします。

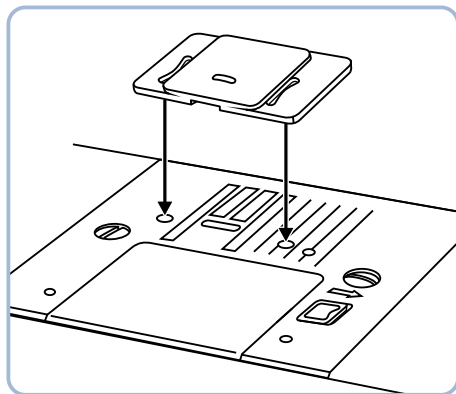
2段式押え金



押え金レバーを使えば、押え金を上下させることができます。

分厚い布を数枚重ねて縫う場合には、押え金をもう一段階高い位置に上げる事ができます。

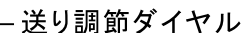
送りカバープレート



フリーハンドの刺繍を行う時には、送り歯に送りカバープレートを取りつけます。

イラストを参照して送りカバープレートをセットして下さい。

通常のソーイングでは送りカバープレートは、必ず取り外して下さい。



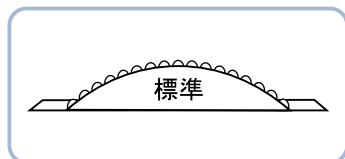
- ## 模様選択ダイヤル



! 注意

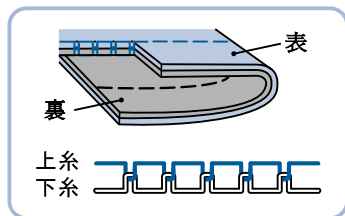
- 模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて、針を布地から上げてください。針が布地に刺さっている状態では、針が折れ、ケガをする原因となることがあります。

上糸調子のとり方



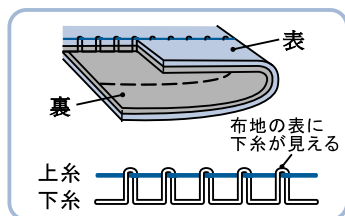
●上糸調節ダイヤル

通常、上糸調節ダイヤルを「標準」に合わせると、一般的な糸や布で糸調子が合う様に調節されています。



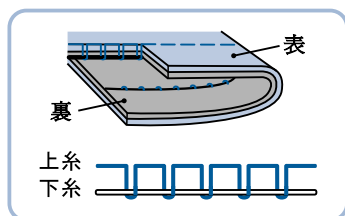
●正しく調節されている場合

布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合は下記のように、上糸調節ダイヤルを回して調節してください。左図のように、上糸と下糸が布の中間で交差して布や糸がつれたり、たるんだりしていないのが正常です。ボビンが正しくセットされているか確認してください。



●上糸が強い場合

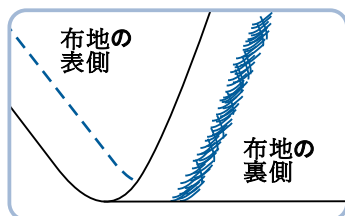
上糸と下糸の重なりが、布地の表にできます。上糸調節ダイヤルを数字が小さくなる方向へ回し、糸調子を弱くします。



●上糸が弱い場合

上糸と下糸の重なりが、布地の裏にできます。上糸調節ダイヤルを数字が大きくなる方向へ回し、糸調子を強くします。

布地の裏側がタオル地のようになるのは



左図のように布地の表側は普通に縫えて、裏側がタオル地のようになるのは上糸の調子が弱いとか上糸のかけかたがまちがっています。13、14 ページをごらんの上、正しくかけ直してください。また、上糸調子の調節のしかたは上図を参考にしてください。

直線縫い

○すべての縫い方の基本です。正しい使い方をよくおぼえてください。



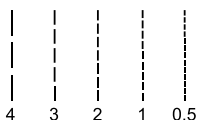
模様



ジグザグ押え



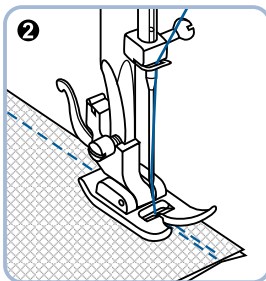
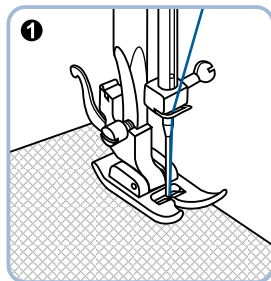
送り調節ダイヤル



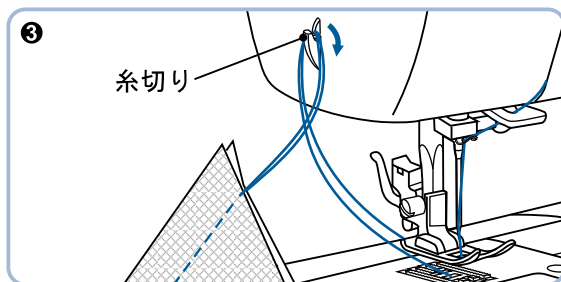
送り調節ダイヤルを○にセットすると布は動かず同じ場所を針がさします。

●縫い方

- 縫い目の長さの調節は送り調節ダイヤルでします。普通は目盛の2~4が標準ですが布地の厚さや糸の太さ、縫う目的などで変わりますので、試し縫いをして調節してください。



- ① 縫い始める位置ではずみ車を手前に回し、針を刺してから押えをおろしてください。フットコントローラーをゆっくり踏むとスタートします。



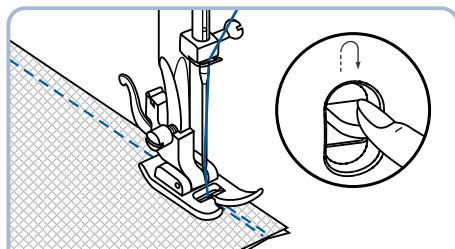
- ② 縫い終わりましたらフットコントローラーを足から離し、はずみ車を手前に回して針を上げます。
- ③ 押えを上げ、面板糸切りに糸をかけて手前下に引くと糸が切れます。

ケガ防止のために

!注意

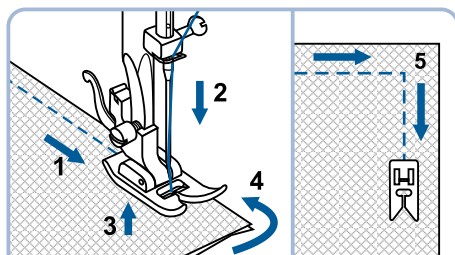
- 針先には十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって送られますので、無理に引っ張ったり、押しつたりしないでください。針が折れ、ケガをする恐れがあります。

返し縫い・縫い方向のかえ方・厚地の縫い始め・段縫い



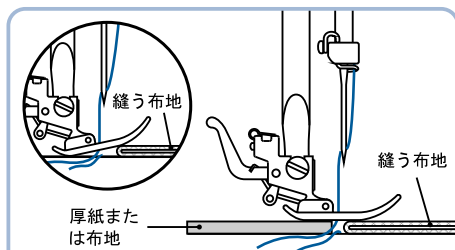
● 返し縫い

- フットコントローラーを踏みながら返し縫いレバーを下に押し下げている間は、返し縫いができます。レバーを離すとミシンは前進します。
- 縫い始めと縫い終りに 3~5 針返し縫いをしておきますと、縫い目がほころびず、丈夫になります。



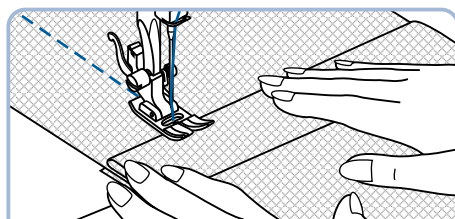
● 縫い方向のかえ方

- ① 布地の角まで来たら、ストップします。
- ② はずみ車を手前に回し、針を下げ、布に刺します。
- ③ 押えを上げます。
- ④ 針を軸にして布地を回し、縫い方向にセットします。
- ⑤ 押えを下げて、縫い始めます。



● 厚地の縫い始め

- 厚地の布はしから縫い始めるときに、押えが傾いてスムーズに縫えないことがあります。このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがって縫い始めます。



● 段縫い

- 布地が重なって、急に厚くなった部分を縫うときは、手で布の送りを助けながら縫います。

ジグザグ縫い



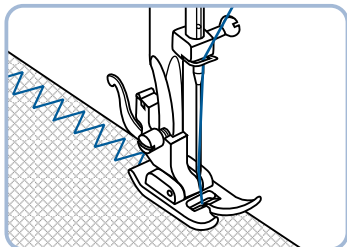
模様



ジグザグ押え



送り調節ダイヤル



ジグザグ縫いの糸調子は、直線縫いにくらべ、上糸をやや弱めにし、うらに上糸がでるくらいが目安です。

送り調節ダイヤルの目盛を0に近づけるにしたがい、密着したジグザグ縫いになります。

布に応じて模様選択ダイヤルでジグザグの振幅を調節してください。

- 伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいに縫えます。

裁ち目かがり



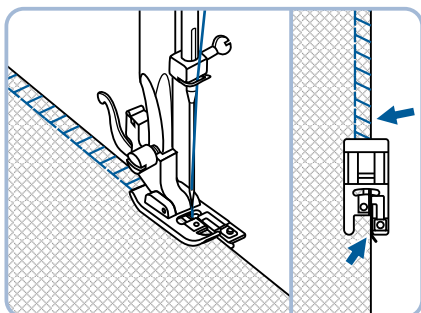
模様



ふちかがり押え



送り調節ダイヤル



布端をガイドに合わせて縫います。

ボタンホール

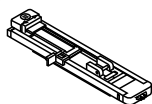
！注意

ケガ防止のために

押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



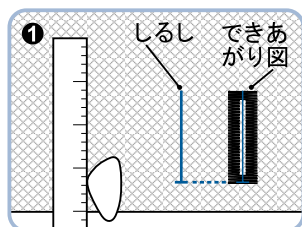
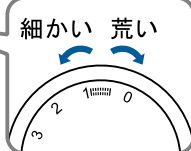
模様



ボタンホール押え

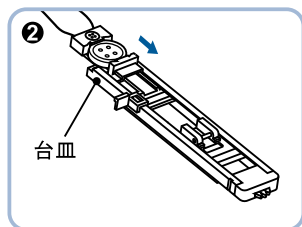


送り調節ダイヤル



● 必ず縫うものと同じ布地(残り布)で試し縫いをしてから縫ってください。

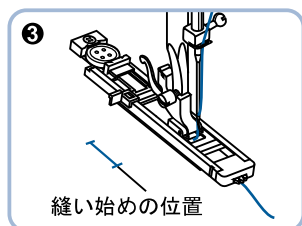
① ボタンホールをつくる位置にチャコペンなどでしるしをつけて下さい。
「ボタンの直径+厚み」が3cmまでのボタンホールができます。



● 送り調節ダイヤルを  にあわせて縫いますが、布地によっては縫い目調節が必要な場合があります。

② ボタンホール押えを取り付け、台皿を引き出して、ボタンをのせてはさんでください。

● 台皿にボタンをはさむことによってボタンホールの大きさが決まります。

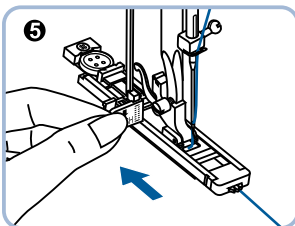
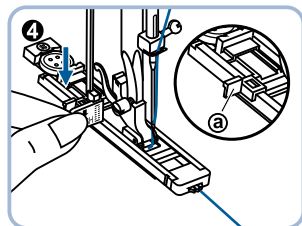


③ 布を入れ、縫い始めの位置に針をさした後に押えを下げて下さい。そのとき、糸は押えの下に通し、手前に出しておいてください。

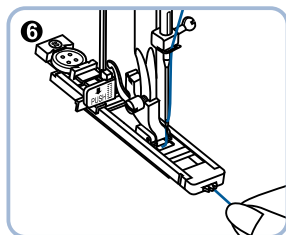
④ ボタンホールレバーを③部の手前に止まるまで下げます。

⑤ レバーをうしろへ止まるまでかるく押します。

※ ボタンホールをつくる度に、スタートの前に必ずうしろへ押してください。

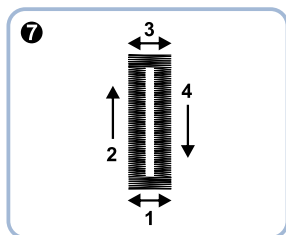


ボタンホール



⑥ 上糸を持ってスタートしてください。

● 手は布地にかかるくそえてください。

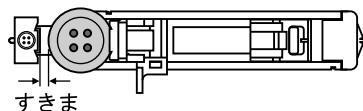
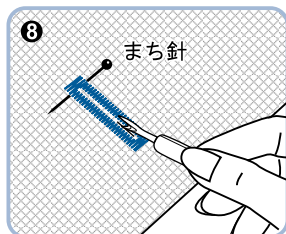


⑦ 1・2・3・4 の順序で自動的に縫い、縫い終わったらミシンを止めます。

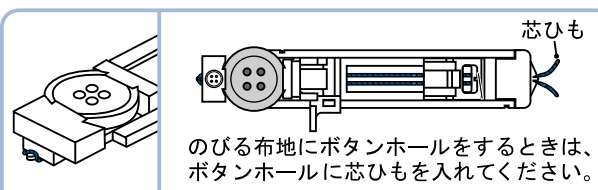
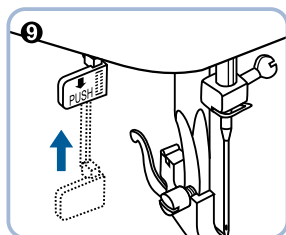
⑧ かん止めの内側にまち針をうちリッパーで糸を切らないように切り開いてください。

⑨ 縫い終わりましたら、ボタンホールレバーを止まるまでいっぱい押し上げて収納しておいてください。

！注意 ケガ防止のために
リッパーで穴を開けるときの、リッパーの先方に手や指を置かないでください。すべったときけがをする原因となります。



台皿のすきまをあけて、位置決めすると、その分大きいボタンホールができます。



のびる布地にボタンホールをするときは、ボタンホールに芯ひもを入れてください。

● のびる布地の場合

まつり縫い（ブラインドステッチ）

- 布地の表面に目立たない縫い目を作る縫い方です。
- ズボンやスカートの裾、袖口の裁縫に用います。お子さんの服の丈の直しなどにもぜひご利用ください。



模様

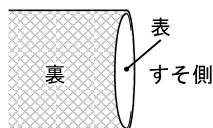


ブラインドステッチ押え

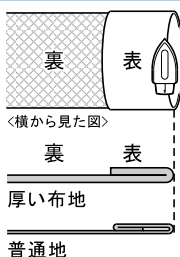


送り調節ダイヤル

①



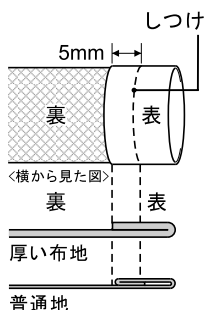
②



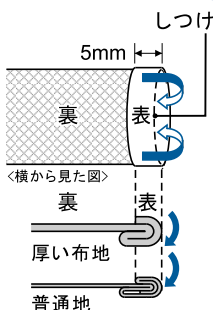
- ① すそ上げするスカートやズボンを裏返します。

- ② できあがり線で布を表返し、アイロンをかけます。

③



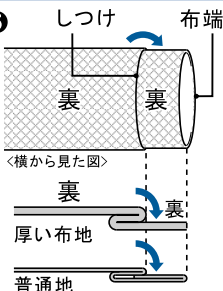
④



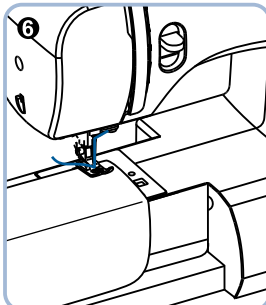
- ③ 布端から約5mmのところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。

- ④ しつけをしたところから、内側へ折り込みます。

⑤



⑥

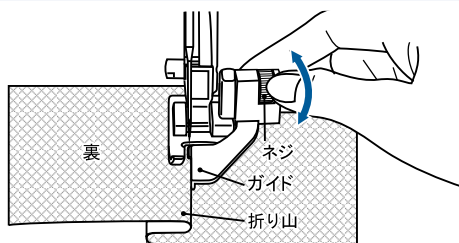


- ⑤ 布端を開いて裏返します。

- ⑥ ミシンをフリーアームにして、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認します。

まつり縫い（ブラインドステッチ）

⑦ ⑧

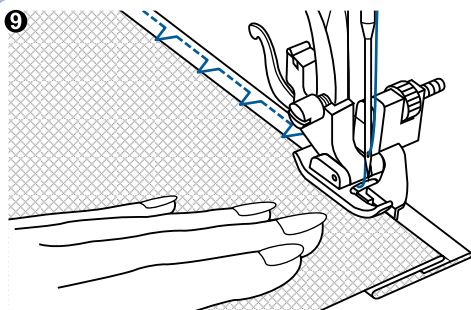


⑦ 左の針落ちがわずかに折り山にかかるように、布地をセットします。

⑧ 折り山に押えのガイドを合わせて、押えを下げます。

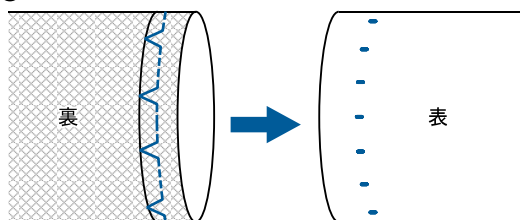
※ ブラインドステッチ押え
<F>のネジを回して、
折り山に押えのガイドが
ピッタリとあたるように調
節してください。

⑨



⑨ 折り山が押えのガイドにあたるように、布地に手を添えながら縫います。

⑩



⑩ しつけをほどき、布地を表に返します。

伸縮縫い（ストレッチステッチ）

- 縫い目が、三本になっているところから、トリプルステッチ、（三重縫い）と呼んでいる代表的な伸縮縫いです。
直線に縫えますので地縫いにもお使いください。



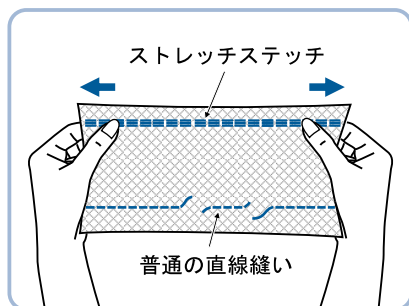
模様



ジグザグ押え



送り調節ダイヤル



- 伸縮性に富んだニットやジャージなどを縫うときは、縫い目も伸縮する伸縮縫いが適しています。

スカラップ



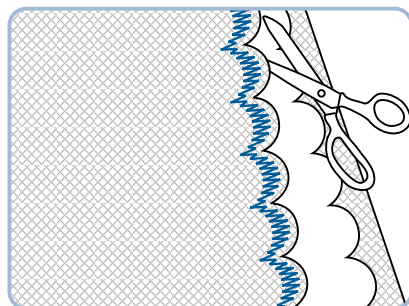
模様



ジグザグ押え



送り調節ダイヤル



- ① 布を表から、布端を1cmくらい残して縫います。
- ② 糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

ファスナー付け

- ファスナーは機能的なうえ、装飾にもなります。
ファスナー押えを使ってゆがみや縮みのない、きれいな縫い目に仕上げてください。



模様



ファスナー押え

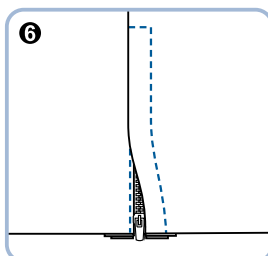
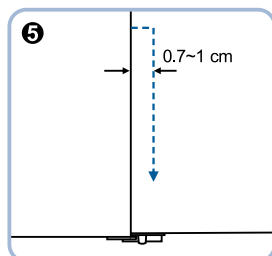
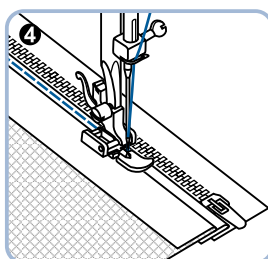
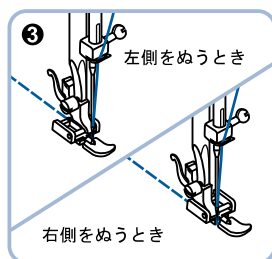
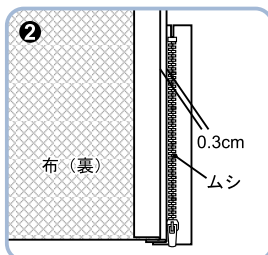
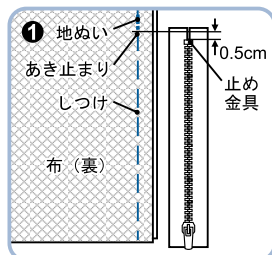


送り調節ダイヤル

ケガ防止のために

! 注意

- 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行なってください。
- ファスナー押えは必ず直線だけにお使いください。
ほかの模様では、針が押えに当たって折れ危険です。



- ① 中表にして、あき止まりまで地縫いをします。
- ② 縫い代をわり、下の布の縫い代を 0.3cm 出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。
- ③ ファスナー押えを取り付けます。ファスナーの左側を縫うときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側を縫うときは、左側のみぞをホルダーに入れます。
- ④ ファスナーの左側をあき止まりから縫います。
押えがファスナーのムシにのらないようにして縫います。
- ⑤ 上の布を開き、あき止まりと右側を縫います。
右側は、布の折り目から 0.7 ~ 1cm はなして縫います。
- ⑥ スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りを縫います。

ファゴティング



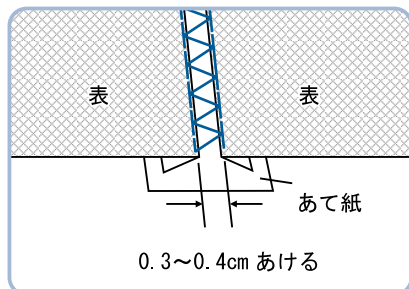
模様



ジグザグ押え



送り調節ダイヤル



- ① 布端と布端の間隔を 0.3~0.4cm あけて、裏にあて紙をします。
- ② 布の表から、間隔の中央を中心にして縫います。
- ③ あて紙をとります。

パッチワーク



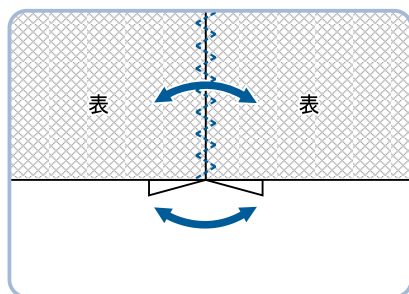
模様



ジグザグ押え



送り調節ダイヤル



- 布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。
- 布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

シェルタック



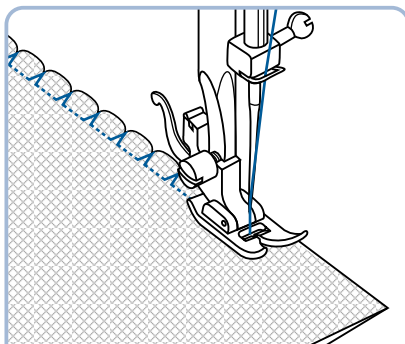
模様



ジグザグ押え



送り調節ダイヤル



糸調子は、試し縫いをして、シェルタックの山がきれいに出るように調整します。

- ① うす手の布をバイヤスに2つ折りにし、右側を輪にして押えの下におきます。はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側において縫います。
- ② 布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

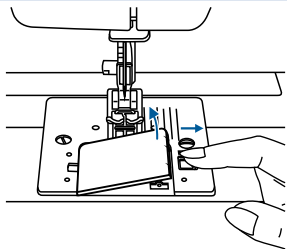
ミシンの手入れ

！注意

ケガ防止のために

お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

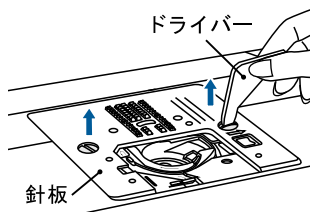
①



● 内がまと送り歯の掃除

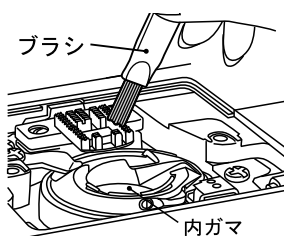
- ① かまカバーをはずして、ボビンを取り出します。

②



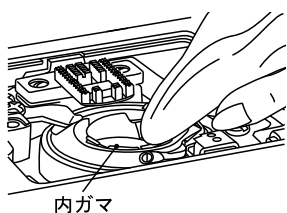
- ② 針板の止めネジ(2ヶ所)を付属のドライバーではずし、針板を取ります。

③



- ③ ブラシで送り歯に付く糸クズやほこりを掃除します。

④



- ④ 内がまをブラシで掃除して、布などで軽く拭きます。

LED ライトの交換

マシンに装備されている LED ライトは非常に長持ちなので、通常は交換の必要はありません。もし万が一、交換の必要が生じた場合には、お買い上げのお店にご相談ください。

こんなときには（調子が悪い場合）

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてください。

※ 糸調子が合わない原因は、糸かけやボビンのセットが誤っている事がほとんどです。一旦、上下糸を取り外し、正しくセットし直してください。参照ページ 12～14

不調の状態	原因	参照ページ
布地が縮む	● 上糸の掛け方がちがっていたり、余分な箇所 にひっかかっているとき	13,14
	● 上糸の調子がつよすぎるとき	22
	● 布地に対して縫い目の長さが長すぎる時	23
縫い目に輪 ができる	● 上糸の掛け方がちがっていたり、余分な箇所 にひっかかっているとき	13,14
	● 上糸、下糸の調子が完全でないとき	22
針が折れる	● 細い針で厚地を縫ったり、細い針に太い糸を 使ったとき	19
	● 針の取り付けかたが悪かったり、曲った針を 使用したとき	17
	● 布地を無理にひっぱったとき	23
	● 針止めねじがゆるんでいるとき	17
	● 押えがゆるんだりして針にあたったとき	18
	● 針を布地にさしたまま、模様選択ダイヤルを 回したとき	21
布地を送ら ない	● 送り調節ダイヤルが0の位置にセットされて いるとき	23-33
縫い目がと ぶ	● 針が曲がっていたり、針先がつぶれていると き	17
	● 針が糸の太さと合っていないとき	19
	● 上糸の掛け方がちがっているとき	13,14
	● 針が正しく取り付けられていないとき	17
	● 針板の下に糸くずがからまっているとき	34
	● 針と布糸の材質が合っていないとき	19

こんなときには（調子が悪い場合）

不調の状態	原因	参照 ページ
上糸が切れる	● 糸の掛け方がちがっているとき	13
	● 針が曲がっていたり、先端がつぶれているとき	17
	● 針が糸の太さと合っていないとき	19
	● 上糸の調子が強すぎる時	22
	● 針の取り付けかたがちがっているとき	17
	● 糸が必要以外のところからみついているとき	12,13
下糸が切れる	● 下糸の調子が強すぎる時	22
	● かまの中で下糸がからみあっているとき	13,34
ボビンに糸が巻けない	● ボビンが下糸巻き軸に完全にさしこまれていないとき	10

この頁に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店におたずねください。

●修理サービスのご相談

- 1 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

- 1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。

ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。

- イ 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
- ロ 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
- ハ ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
- ニ ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- ホ 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。

- 2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
- 3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
- 4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

160年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

ミシンの仕様

形 式	SN621
定 格 電 圧	100V
消 費 電 力	60W
周 波 数	50Hz/60Hz
LED ライト	Max. 100mW
寸 法	幅 : 412 mm × 奥行 : 186 mm × 高さ : 300 mm
重 量	約 5.8 kg (本体のみ)

[illegible]

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

株式会社ハッピージャパン

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号
電話 03-3837-1865

(本社) 〒990-2251 山形県山形市立谷川3丁目3515